

原油市場展望

2026年 7 月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

目次

◆現状・見通し……………p. 2

◆トピック……………p. 3

メルマガ	X (旧Twitter)	YouTube
 経済・政策情報メールマガジン	 日本総研調査部X (旧Twitter)	 日本総研YouTube

調査部 マクロ経済研究センター（米欧経済グループ）

研究員 梶野 裕貴（Tel: 070-3344-2620 Mail: togano.yuki@jri.co.jp）

- ◆本資料は2026年7月16日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆「[経済・政策情報メールマガジン](#)」、「[X \(旧Twitter\)](#)」、「[YouTube](#)」でも情報を発信しています。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

原油価格見通し：当面80ドル前後で高止まり

原油

◆現状：下落した後、80ドル前後に反発

6月のWTI原油先物価格は、月末にかけて60ドル台に下落。米国とイランの間で戦闘終結に向けた覚書が署名されたほか、ホルムズ海峡の封鎖が解除され、石油輸送が正常化すると期待が高まったことが主因。米国の利上げ観測の強まりを映じたドル高を背景に、ドル建てで取引される原油先物の割高感が意識されたことも価格を下押し。

7月入り後は、一時80ドル台に上昇。イランがホルムズ海峡を通航する船舶を攻撃した一方、米国がイランを攻撃し、石油輸送の正常化期待がはく落したことが背景。中旬には、イランがホルムズ海峡を再封鎖する一方、米国が同国に対する攻撃を続けるなど、両国間の対立が激化。

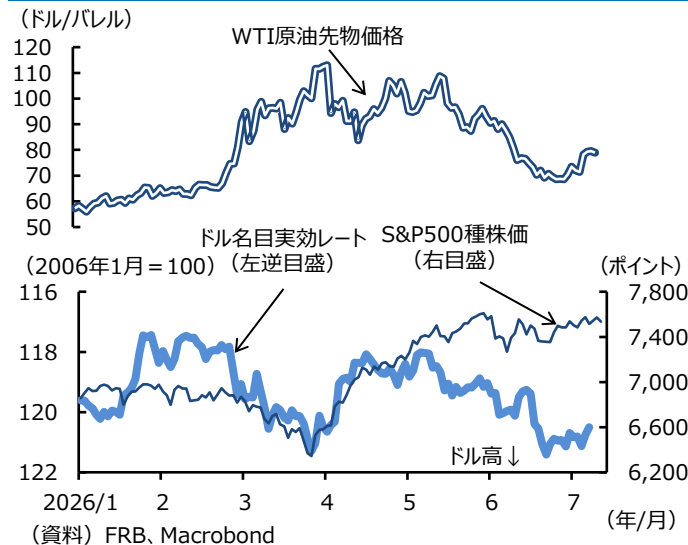
◆投機筋のネットポジションは縮小

3月にかけて拡大した投機筋の買い越し幅は、足元で縮小。両国の対立は続いているものの、戦闘がいずれ落ち着き、石油供給が徐々に回復すると期待が市場参加者の間で根強いことが背景。

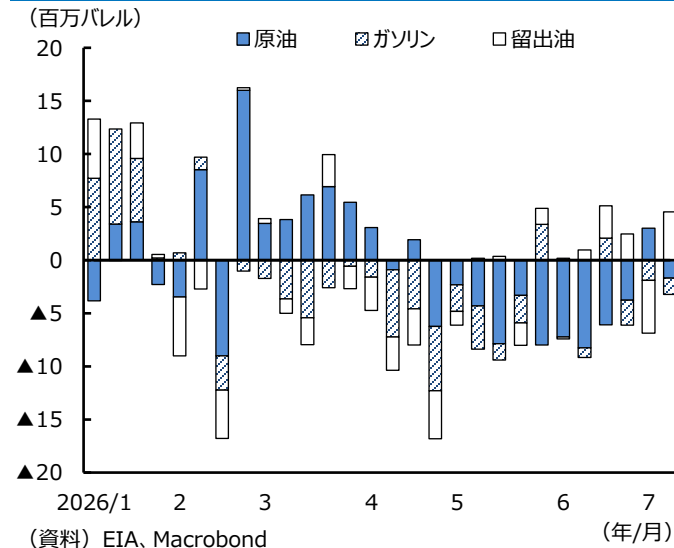
◆見通し：当面80ドル前後で高止まり

両国の紛争がこれ以上激化しないことを前提とするメインシナリオでは、原油価格は当面高止まりする見通し。実際の石油供給は今後増加していくと想定しているものの、こうした供給増はすでに価格に織り込まれているため、追加の価格下押し効果は限定的。紛争やホルムズ海峡封鎖が長引くサブシナリオでは、価格が100ドル前後まで上昇する可能性も。

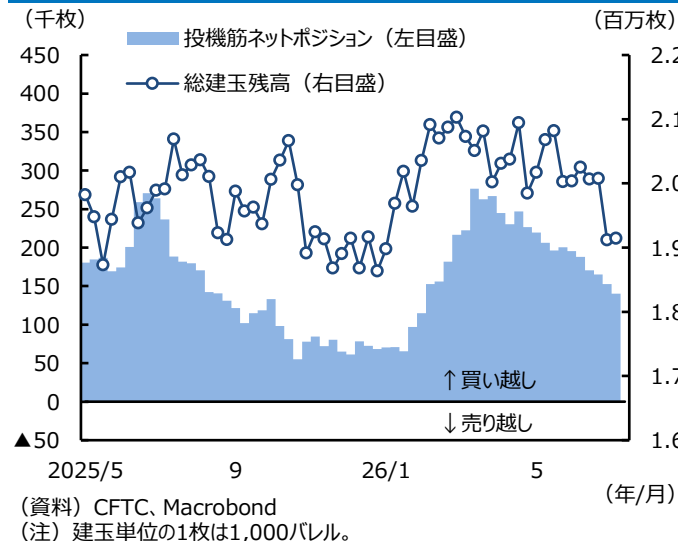
原油価格と株価・為替レート



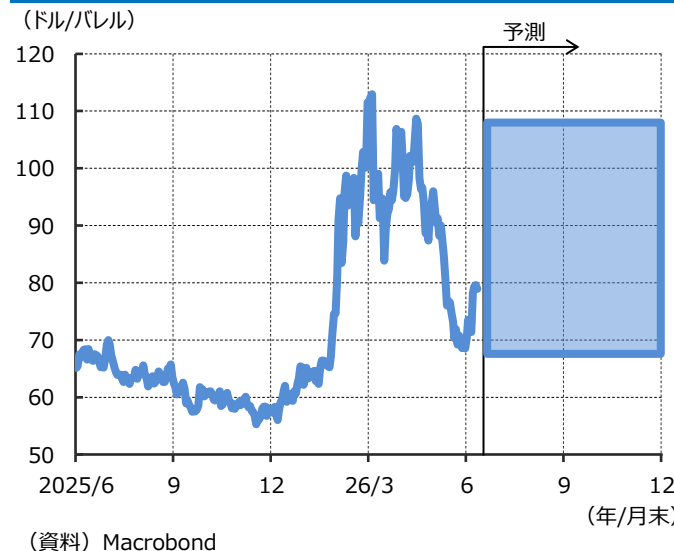
米国の原油・石油製品在庫 (前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



◆石油在庫の動きと乖離する原油価格

6月以降、原油価格と石油在庫の動きが乖離。原油価格は5月の100ドル弱/バレルから、同80ドル前後に下落。一方、石油在庫は取り崩しが続き、ロシアのウクライナ侵略時を下回る水準まで減少。

足元の需給を反映する在庫が減少しているにもかかわらず、価格が下落する背景には、将来の供給増加に対する市場参加者の根強い期待。米国とイランが戦闘終結に向けた覚書に署名したことで、市場参加者は、ホルムズ海峡の通航や中東の石油生産の正常化を先回りして織り込んでいる可能性。

◆需給面から今後の上振れ余地は大

将来の供給増は織り込み済みであるため、今後実際に供給が増えても、価格下落圧力は限定的となる公算。むしろ、市場の想定よりも石油の生産回復が遅れる場合、価格が上昇する可能性。足元では、ホルムズ海峡の再封鎖を受けて、同海峡を通航するタンカーの数が減少。日量800万バレル程度の減産を迫られている中東の原油生産回復が滞る恐れ。

加えて、両国の対立が緩和し、ホルムズ海峡が正常化したとしても、諸外国による備蓄の補充が需要面から価格押し上げに作用する見込み。各国がこれまでに取り崩した石油在庫を紛争開始前の水準まで1年間で回復させる場合、日量170万バレル程度の追加需要が生じると試算。補充ペースを速めたり、紛争開始前よりも備蓄水準を引き上げたりする場合には、需要が一段と上振れる可能性も。

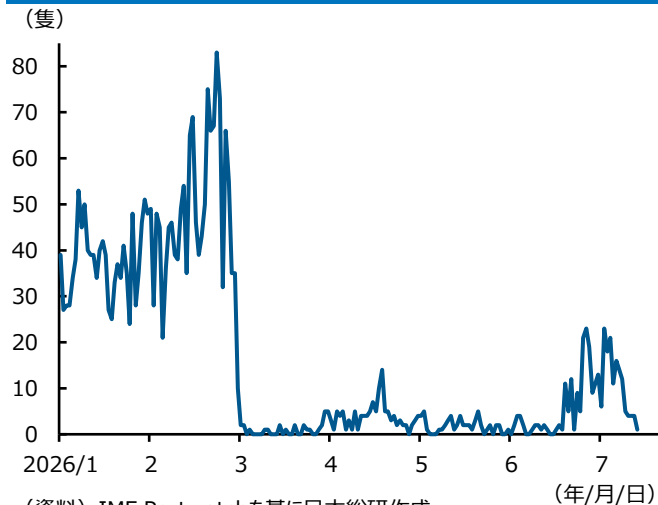
WTI原油価格と石油在庫



（資料）EIAを基に日本総研作成

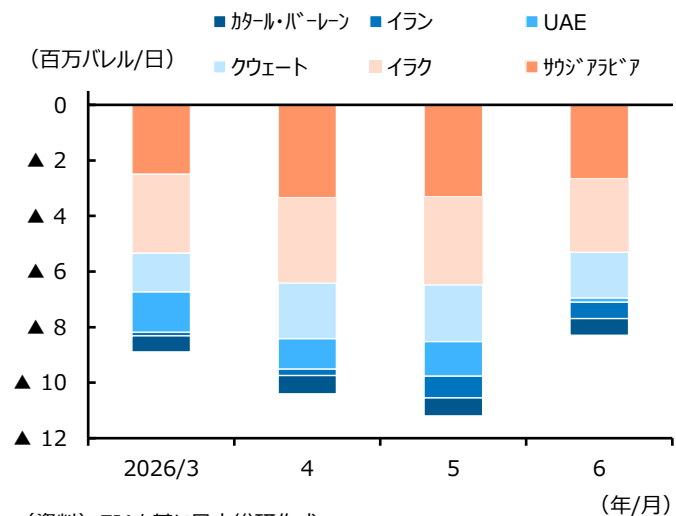
（注）価格は月平均、在庫はOECD商業用石油在庫の月末値。

ホルムズ海峡を通航するタンカーの数



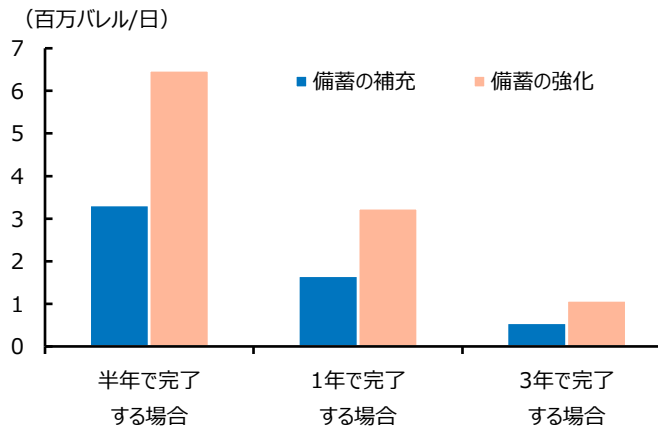
（資料）IMF Portwatchを基に日本総研作成

ホルムズ海峡封鎖に伴う中東産原油の減産幅



（資料）EIAを基に日本総研作成

備蓄の補充・強化で生じる追加の石油需要



（資料）EIAを基に日本総研作成

（注）補充は、世界全体で3～6月に取り崩された石油在庫と同じ量を一定期間かけて積み増す場合。強化は、3～6月にホルムズ海峡封鎖で減産した中東の原油と同じ量を一定期間かけて積み増す場合の試算。

公表済みのレポート（欧米経済関連）

詳細は、以下のリンクからPDF形式でご覧いただけます。

▶ 米国中間選挙プレビュー① ― 議会制約の強まりと大統領単独行動への傾斜 ―	福田直之 ジェイムズ・パターソン 野木森稔	7月15日
▶ 【2026～27年欧州経済見通し】レジリエンスを高め、持ち直す欧州経済 ～ 対米関係・域内政治の混乱による政策停滞がリスク ～	梶野裕貴 立石宗一郎	6月30日
▶ 【2026～27年米国経済見通し】AIが主導する米国の景気回復と格差拡大～リスクは投資腰折れと分断の加速～	森田一至	6月30日
▶ 【2026～27年世界経済見通し】底堅い成長が続く世界経済～リスクは地経学的分断とAI過剰投資～	若林厚仁	6月30日
▶ 米国独立250周年：格差と分断を抱えながらも発展を続ける超大国	石川智久	6月22日
▶ AnthropicのMythos級AIモデルに対する米国政府の規制が意味するもの	福田直之	6月15日
▶ 米・イラン紛争を踏まえ、今後の原油市場をどうみるか ― シナリオ別の生産・価格見通し ―	梶野裕貴	6月8日
▶ 英国の財政規律、地方選挙を受けて高まる緩和圧力―「ドーマー条件」が満たされにくいなか、金利上昇・ポンド安が進むリスク―	ジェイムズ・パターソン	6月1日